



るうてる



2018年
2月
No.842

●発行所 ■ 日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

●ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

●E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

●発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

●印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

●定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

●振替口座 ■ 00190-7-1734

説教 「恐れからの救い」

日本福音ルーテル日吉教会 牧師 齊藤忠碩

「その日の夕方になって、イエスは、『向こう岸に渡ろう』と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起り、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、『先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか』と言った。イエスは起き上がった。風を叱り、湖に、『黙れ。静まれ』と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。』弟子たちは非常に恐れて、『いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか』と互いに言った。」



す。信仰は恐れを取り除いてくれます。しかし間違っ
てはなりません。
この信仰とは、嵐が起る
たびごとに、神を呼び求
めると神はすぐ嵐を静め
てくださるという意味では
ありません。イエス様は
時には波風に向かつて「静
まれ、黙れ」と言われます。
ある時には私たちの状況
を変えられることもあり
ます。また別の時には、私
たち自身を変えてくださ
います。私たちの人生には
いろいろな苦しみ不安、心
配などが次から次へと出
て来ます。それが自分で解
決できない時、舟に乗っ
ている弟子たちのように「先
生、私たちが、おぼれても
かまわないのですか」と恐
れから不平、不満を神さま
に、時には回りの人たちに
ぶつけてしまうことがあ
ります。

「なぜ怖がるのか。まだ
信じないのか。」これは、2
000年前に嵐の中で震え
ていた人たちに対するイエ
ス様の問いかけです。もし
もイエス様が今日、肉体を
とって地上に来られるなら、同じ問いがイエス様の
口から発せられるでしょ
う。
ルイス・ブラウンという
学者が、石器時代の原始人
について、こう語っていま
す。「はじめに、恐れがあり
ました。恐れは人の心のう
ちにあります。そして人
を支配していたのです。恐
れはいつも人を圧倒して、
人に安らぐことを救しま
せんでした。風の激しいざ
わめき、雷鳴の轟き、待ち
伏せする野獣の唸り声が、
人を恐れで揺さぶりまし
た。人の毎日は恐れで塗り
つぶされていきました。人の
世界には危険が充満して
いました。原始人は、すき
ま風が吹き込む穴倉で傷を
癒しながら、恐れに震える
ほかなかったのです。」
さて、現代人である私た
ちは、いろいろな面で進歩
発展を遂げてきました。快
適な家に住み、車に乗り、
文化的な生活を送れるよ
うになりました。しかし、
それでもなお、古代人と同
じように心に恐れと不安
を持ちながら生きていま
す。何故なのでしょう。か。
イエス様は、私たちに恐
れるな、怖がるなと言われ
ます。イエス様は一人一人
が持っている恐れを取り除
いてくださる方です。キリ
スト教は「恐れからの救い」
を与えてくれます。

その時、イエス様は嘆か
れます。「なぜ、信仰がな
いのか」と。イエス様はい
つも私たちと共にいてくだ
さる方です。「わたしは世
の終わりまで、いつもあな
たがたと共にいる」(マタ
イによる福音書28章20節)
とイエス様は言われます。
このみ言葉を信じる信仰
が、私たちがすべての恐れ
から救い、恐れを取り除い
てくれるのです。アーメン



人生の最悪の敵、それ
は間違った恐れです。しか
し、基本的には、恐れは良
いことです。神さまは、人
間に自らを守るために恐
れるという能力を備えて
くださいました。愚かな
者は恐れるということ

彼らは嵐に比べて自分た
ちの力が小さすぎると
思ったのです。それで沈み
かけたのです。自分は小
さい者だ。自分にはかな
わない。その思い、それが
誰もが恐れる理由です。
人はいろいろな出来事に
出会って恐れと不安と心
配をいつも感じながら生
活しているものです。どう
すれば恐れ・不安から癒
されるのでしょうか。
イエス様は「まだ、信じ
ないのか」と言われまし
た。恐れを癒すたった一つ
の方法、それは「信仰」で



②3【not favor but love】

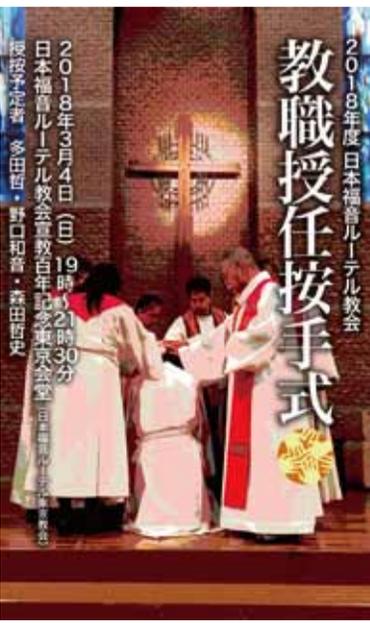
キルケゴールは、『哲学
的断片』の中で「貧しい女
性を愛した王の話」を物
語ります。その中でキルケ
ゴールは、王が女性に莫大
な財産を与え自分と同等の
者に引き上げることは、「本
物の愛」ではなく「恩恵」
を与えるにすぎない、と記
すのです。王の愛が「本物
の愛」であるならば「自分
が相手のもとまで降りてゆ
くことが試みられなければ
ならない」と。キルケゴー
ルはこの物語を通して「愛」
と「恩」は違ふと言っている
のです。

しかし、昨今の日本では
少なからずの人たちが「愛」
と「恩」を混同しているよ
うに思えます。なかでも「愛
国心」という言葉を高圧的
な口調で語る人たちは、明
らかに、「愛」と「恩」を混
同しています。というのも、
彼らが叫ぶ「愛国心」とは、
主人(国)のために尽くせ
ということだからです。「恩」
とは、身分の高い者が身分
の低い者に与えるものであ
り、主従関係を前提にした
ものです。そして、「恩」を
受けた者が主人に返すもの
は「愛」ではなく「忠誠」です。
だから、高圧的に「愛国心」
を語る人たちは、「国を愛す
る」ことではなく、「国に忠
誠を尽くせ」と言い募って
いるのです。

それで彼らは、国に忠
誠を尽くすことのできな
い(戦争になっても兵士に
なれない、武器を買ったため
のお金を差し出せない)人
たちを、愛国的でない存在
として排除します。彼らに
「恩」を与えても仕方ない、
という具合に。
しかし、主イエスが「貧
しい人々は幸いである」と
言われたように、国に忠誠
を尽くすことのできない人
たちこそが、私たちに「本
物の愛」を開示してくれる
のです。

岩切雄太

(門司教会、八幡教会、佐賀教会、小城教会牧師)



2018年度日本福音ルーテル教会
教職授任按手式
2018年3月4日(日) 19時21分30分
日本福音ルーテル教会宣教師百年記念東京会堂(日本橋区本町)
授任者 多田 野口和音・森田 晋史



議長室から

一番寒い季節を迎えています。都南教会に植えられている花木やぶどうの木は、枝だけがむき出しになっていきます。冬の風景はやはり寒々しいものです。ところが最近、どことなく温かい気持ちにさせることがあります。

花水木の葉はぜんぶ落ちたはずなのに、なぜか一葉だけ残っているのではあ

りませんか。不思議に思い近づいて見上げると、野球ボールほどの小さな鳥の巣であることがわかりました。敷地の駐車場の真上にあつたにもかかわらず、葉が生い茂っている時にはまったく気づけなかったのです。いや、人に気づ

教会にあつた鳥の巣

総会議長 立山忠浩

と言われたことを思い出しました。「よく見なさい」と言われたのですから、人々がいかに日常の風景の中に見逃していることが多いのかを喚起されたのです。私の場合も日常の営みをよく見ていなかったことに気づかされたので

という事情もあつたことではないかと思ひます。でもそれだけでなく、木の下を通り過ぎる人たちが危害を加えることはないことを独特のセンスで感じ取つたに違いありません。だから安心して巣作りと子育てを行つたのです。

すが、遅まきながら、今は風雨に晒されているその巣をよく見てみたのです。様々なことが思い巡らされて来ました。その一つが、なぜ人通りの多いところに巣を作つたのだろうかとということ。都心には人のいない所などない

この「安心」という言葉は、鳥の巣作りだけのことではないと思ひます。それは「平安」とか「平和」という言葉に言い換えることができるでしょう。人が生きて行くためには欠かせないものです。しかし、いつの時代でも、人々の生

活では、それが危機に晒されているという現実から逃れることはできないのです。教会の敷地に鳥が巣をこしらえたことは偶然かもしれませんが、でも私には教会の存在の意味を改めて喚起しているように思えるのです。それは、キリストの平和を外に向かつて宣教し、その平和の姿が少しでも目に見えるように、教会の内でも実現していかなければならないという使命の存在です。高い使命ですが、臆することなく、期待と励ましの言葉と受け取りたいのです。



聖望学園における被災地生産物販売支援

プロジェクト3・11企画委員 久保彩奈

聖望学園では文化祭とクリスマス礼拝で毎年被災地の生産物販売支援を行っています。中でもボランティアでお世話になつている、石巻十三浜の西條さんのわかめとトコロ昆布を毎回販売してきました。この販売を行うのは、ボランティアを主な活動とするハ

イスクールYMCA部の生徒たちです。嬉しいことに、昨年の文化祭の日、他の教員から「さつき『わかめはどこで売っていますか?』と聞かれたよ。聖望の文化祭で東北のわかめ、定着したね!」と声をかけられました。生徒や卒業生、保護者の方々や教職員はじめ、今では毎年約200名ほどの方に購入していただいています。しかし初めから物販支援がうまくいったわけではありませんでした。

痛みに触れ、「きつとみんな被災地支援のために買つてくれるだろう」と文化祭のために強気な数のわかめ等を任入れました。しかし、十分に周知されていなかったこともあり、残念ながら販売数は伸びず、文化祭終了間際に生徒たちは大量のわかめを持って職員室に行き、なじみの教員に「お願いします。買って下さい」と頭を下げてお願いしました。クリスマス礼拝の際も他の生徒たちから「何でクリスマスなのかわかぬの?」と訝しげに聞かれた時もありました。しかし諦めずに説明と販売を続け、何より、このわかめがおい

しいことが決め手となり、今では教員や保護者の方々、また卒業生から事前に「取り置きして欲しい」と依頼されるまでになりました。生産物販売支援を始めた当初より、販売数が伸び続けていることも嬉しい限りです。



カトリック教会は、日本のカトリック教会の皆さんに宗教改革500年共同記念の意義を知らせるためリーフレット『カトリックと宗教改革500年』(発行:カトリック中央協議会、制作:宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成しました。編集責任を負われた丸延二郎神父(イエス会上智大学教授)よりご提供いただき、紹介します。

光の存在による神の臨在を表現する美術家である鈴木元彦さんにより、『東京の名教会さんぽ』が出版されました。東京を中心に73の礼拝堂の写真を掲載され、建築学的視点でそれが祈りの場として用いられてきた経緯を含め、見どころを解説しています。

出版社のエクスマレッジは、建築やデザイン関連の書籍を中心に扱う一般の出版社であり、教会にきたことのない方が教会を訪ねるためのガイドとして用いられることでしょうか。カトリック東京カテドラル関口教会や聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂といった著名な礼拝堂に加え、日本福音ルーテル教会の市川教会本郷教会、三鷹教会(ルーテル学院大学チャペル)、おさしの教会が取り上げられています。一般書店、オンライン書店でも入手可能です。



カトリックと宗教改革500年④ 教会一致運動(エキュメニズム)の進展(2)

『エキュメニズム』(教会一致の推進)という言葉は「家」を意味するギリシア語「オイコス」から派生する「オイクメネー」、すなわち「人の住む全世界」に由来し、全地に広がっていく教会を示します。「公會議(シノドス・オイクメニケー)」とは「全世界會議」であり、民族や国家的区別を越えた、キリストにおける人類共同体建設を展望しています。「エコロジー」も同じで、フランススコ教皇は、回勅『ラウダート・シ』の副題を「共に暮らす家をたいせつに」としました。(写真③④)



① 13年)も翻訳・出版されました(2015年、教文館 写真②)。 ② 『エキュメニズム』(教会一致の推進)という言葉は「家」を意味するギリシア語「オイコス」から派生する「オイクメネー」、すなわち「人の住む全世界」に由来し、全地に広がっていく教会を示します。「公會議(シノドス・オイクメニケー)」とは「全世界會議」であり、民族や国家的区別を越えた、キリストにおける人類共同体建設を展望しています。「エコロジー」も同じで、フランススコ教皇は、回勅『ラウダート・シ』の副題を「共に暮らす家をたいせつに」としました。(写真③④)



「宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える」を 締めくくるにあたって

ルター研究所長 鈴木 浩

どのくらい続けて書いてきたのか自分でも忘れてしまったが、毎月「るてる」の紙上をお借りして、宗教改革とそれに果たしたルターの役割やその背後の事情などを一貫性や連続性をあまり考えずに、その都度、大事だと思っただけに書き連ねてきた。短い文章をそれなりにポイントに絞って毎月まとめ上げるのは、文筆の才にまさか欠けのある身にとっては、正直、辛い仕事でもあったが、ルターに対する自分の思いを読者の皆さんと共有できるといふ喜びもあった。

「500年」の様々なイベントが取りあえず最後を迎えつつあるこの時期、こうした様々な対話集会やイベントが「単なるお祭り」に終わらないためには、改めて「宗教改革」とは何であったのかを確認する必要があるであろう。その点は、そうした集会やイベントでは必ず強調されていたと思うが、何よりもルターが強調したの

「神の福音を本来の姿に取戻す」ということであつた。「福音」とはそもそも「神の憐れみは、何よりもまず罪人に向けられており、神が罪人と連帯してくださつた」ということであつた。それが「クリスマスのお祭り」であつた。それは、「神が人間になつた」という出来事であつた。それを普通「受肉」と言うが、要するに「神の人間化」のことである。さらに言い換れば、「神が人間と同じ立場に立つた」ということであつた。...

「福音」とはそもそも「神の憐れみは、何よりもまず罪人に向けられており、神が罪人と連帯してくださつた」ということであつた。それが「クリスマスのお祭り」であつた。それは、「神が人間になつた」という出来事であつた。それを普通「受肉」と言うが、要するに「神の人間化」のことである。さらに言い換れば、「神が人間と同じ立場に立つた」ということであつた。...

「神の人間化」のことである。さらに言い換れば、「神が人間と同じ立場に立つた」ということであつた。...

「福音」とはそもそも「神の憐れみは、何よりもまず罪人に向けられており、神が罪人と連帯してくださつた」ということであつた。それが「クリスマスのお祭り」であつた。それは、「神が人間になつた」という出来事であつた。...

「福音」とはそもそも「神の憐れみは、何よりもまず罪人に向けられており、神が罪人と連帯してくださつた」ということであつた。それが「クリスマスのお祭り」であつた。それは、「神が人間になつた」という出来事であつた。...

「福音」とはそもそも「神の憐れみは、何よりもまず罪人に向けられており、神が罪人と連帯してくださつた」ということであつた。それが「クリスマスのお祭り」であつた。それは、「神が人間になつた」という出来事であつた。...



清野智佳子(藤が丘教会)

宗教改革500年を記念する行事が各地で催される中、2017年11月12日にカトリック藤が丘教会との交わりの時をもちました。

第二バチカン公会議に端を発し、スウェーデンでの宗教改革500年共同記念礼拝に至る、カトリックとルーテルの半世紀にわたる対話や、新共同訳聖書の編纂作業、そして地元での協同の働きを模索するお話に、2教会を合わせて100名を超える参加者が熱心に耳を傾けました。講演に続き、カトリック教会が準備してくださつた懇親会がもたれました。教会における信徒活動や教会暦に沿ったイベントなど、どちらの側にも知らな

ブックレビュー
『原発問題の深層 一宗教者の見た闇の力』
(内藤新吾著/かんよう出版)

「いのちを愛し、平和をつくりだす」
沼崎 勇
(京都教会)



現場を去つた後も、いつガンになるかという恐怖がつきまとい、さらに、被曝労働は差別されるので誰にも言えず、悔しくて仕方なかった、と内藤師に打ち明けたそう。内藤師は、こう述べている。「私は彼のファイルとともに、被曝労働者たちの恨みつらみを一緒に背負って生きていくことを、その日から決断した」(本書69〜70頁)。

チェルノブイリ原発事故の翌年、西ドイツでは緑の党が連邦議会で躍進し、イタリアは国民投票で脱原発を決定した。そして、2011年に東京電力福島第一原発事故が起きると、ドイツ・スイス・台湾などが脱原発を決定した。しかし日本は、原発を維持して

2017年度「連帯献金」報告

2017年度も多くのの方々から「連帯献金」に支援を頂きました。感謝してご報告いたします。(敬称略・順不同)

■熊本地震 建築支援 3,564,000円

厚狭教会、甘木教会、飯田ルーテル幼稚園(保護者等)、板橋教会、宇部教会、栄光教会、及川のり子、大分教会、大牟田教会、岡崎教会、小鹿教会、小田原教会、唐津ルーテルこども園、九州教区女性会、京都教会、キリスト教保育連盟九州部会佐賀地区研修会、小岩教会、甲信地区、国府台母子ホーム、神戸東教会、神戸ルーテル聖書学院学生会、小倉教会教会学校、佐賀教会、シオン教会防府チャペル、シオン教会柳井チャペル、静岡教会、清水教会、下関教会、修学院教会、杉山紘子、聖パウロ教会、関満能、捜真女学校中学部高等学部、田主丸教会、知多教会、千葉教会、中央線沿線7教会協議会、辻谷静子、田園調布教会(関係団体)、小城ルーテルこども園、都南教会、長尾博吉、長崎教会、名古屋めぐみ教会、名古屋ルーテル幼稚園父母の会、奈多愛育園、新潟のぞみルーテル教会、西教区宗教改革500年記念大会「花みずきの集い」バザー売上、日本FEB、日本ルーテル教団、沼津教会、博多教会、函館教会、濱田良枝、浜松教会女性会、東教区女性会、東教区総会、日田教会、一粒の麦、広島教会、福岡市民クリスマス実行委員会、福岡西教会、藤が丘教会女性会、別府教会、増島俊之、松江教会、松本教会女性会、三鷹教会、三原教会、室園教会、湯河原教会、横須賀教会、横浜教会

■ブラジル伝道 741,750円

厚味勉、栄光教会、小城ルーテルこども園、京都教会、神水教会、健軍教会(女性会含)、小石川教会、小泉基、甲佐教会、佐々木裕子、札幌教会、女性会連盟、女性会連盟東海教区、立山忠浩、玉名教会、都南教会教会学校、博多教会、箱崎教会女性会、東教区女性会、古川文江、保谷教会女性会、北海道特別教区、恵み野教会、メロ師歓迎会、ルーテル学院中学校、帯広教会十勝豆会計

■喜望の家 10,000円

博多教会

■メコンミッション支援(カンボジア) 10,000円

博多教会

■世界宣教(無指定) 472,950円

神水教会、フナド100周年 CD 売上金、箱崎教会チャリティコンサート、大垣教会教会学校、榊田智子、日本福音ルーテル教会北海道特別教区・日本ルーテル教団北海道地区、博多教会、室園教会、めばえ幼稚園、芳賀明子(敏)

■宗教改革500年 4,346,289円

栄光教会、岩田典子、大石エツ、大阪教会、大野義定、岡崎教会、岡山教会、甲斐友朗、小泉眞・百合子、神戸教会、斉藤正恵、札幌教会、シオン教会女性会リストコイン、修学院教会、谷川卓三・文江、谷川テエコ、田園調布・雪ヶ谷・都南教会 合同礼拝席上献金、東海教区、中西典子、中村桂子、中村好子、西教区宗教改革500年記念大会、函館教会、東教区、福山教会、保谷教会女性会、森涼子、山川泰宏、吉田憲司、特定非営利活動法人一粒の麦

今年度も、社会・世界における福音の宣教、奉仕、災害・飢餓に苦しむ方々に連帯したいと願ひ祈ります。「連帯献金」を捧げてくださる場合には、それぞれの献金目的[ブラジル伝道][喜望の家][メコンミッション][世界宣教]を郵便振替用紙に明記して、以下の口座に送金くださるようお願いいたします。

郵便振替 00190-7-71734 名義(宗)日本福音ルーテル教会

加えて、三役並びに各教区長らには引き続き翌日正午まで「人事委員会」を開き、常議員会により付託されている次年度教職人事の調整協議を行いました。

その他の協議事項では、大阪・広島事業所の建物大型修繕に伴う既存長期借入金の返済計画変更の件、来る第28回定期総会の提案事項及び準備工程、準備委員会の組織の件などを承認し、3日間の審議を終了しました。

追悼 山本 裕牧師

特別な愛で

三浦知夫 (みのり教会)

「山本先生には特別にお世話になりました。東海教区におりますとこのよう



山本 裕牧師
1930年9月7日生まれ 1954年10月3日受洗
1963年按手 2017年12月2日召天

にしばしばお会いします。人を大切にされる先生でした。一人一人に心を配り、その人の賜物や長所を見つつけ、またその賜物や長所が生かせる教会の働きを見つけて教会を整えていく、そんな宣教をされた先生でした。そのようにされながら『主の山に備えあり』、神様は次にどんなこ

とを備えていくくださるのか、楽しみだ」とよく言っておられました。山本先生の許で宣教研修をさせていただいた頃、その後、先生がアメリカから帰国され同じ地区の牧師として働く機会を与えられた中でも、一人一人を大切にされる姿を間近で見えてきました。私も先生から特別にお世話になったと感じている一人です。

2年前に大きな病気をされた後は、主が備えられたご家族との時間を大切にしながら過ごされ、昨年12月に主が備えられた天の国に旅立っていかれました。今、山本先生も、特別な主の愛の中におられるのだと感じています。

みんなが特別だとしてらそれはもう特別ではないのに、そのように思わせてしまうほど人を大切にされる先生でした。そして、それはイエス様の私たちに

の関わりと似ていると思いましたが、「わたしがあなたに愛し合いなさい」というイエス様の言葉に従い、主のために、主から託された教会のために、教会に連なる一人一人のために歩まれた山本先生だったと思うのです。

第27回総会期 第5回常議員会報告

事務局長 白川道生

第27回総会期第5回常議員会が、11月6日から8日にかけて、ルーテル市ヶ谷センターで行われました。

会議出席の常議員らは、教会行政の立場から、来る2018年に予定される全国総会を視野に入れ、提案すべき事項を整理し取りまとめてゆく時期にさしかかっているとの認識を共有しながら諸々の協議を行いました。

報告事項 宗教改革500年となった2017年は、様々な場面でこの意義を汲んで諸行事・企画が展開されてきました。北海道から九州まで5教区いずれにおいても教区を挙げて行事が実施されたとの報告がありました。

立山議長が「ルーテル教会のアイデンティティーを学ぶ機会にする」、「伝道の好機とする」等、いくつかの狙いを示して推進してきた一連の計画が、宗教改革の足跡を受け継ぎつつ、現代の教会の姿を探索する機会になったという振り返りに合わせて、感謝とこれからの宣教への決意が分かち合われる雰囲気か印象的でした。

また、この常議員会では、宣教会議と同様に、式文委員会によって進められてきた紙1月号に年間予定表として掲載しておりますので、ご確認ください。

また、次年度の各個教会予算に連動する2018年度教職関連費並びに2018年度協力金が審議され、本常議員会にて決定しました。基本表は前年に変更なし(ベースアップ無し)、協力は基礎収入の10%という算定原則に従って確定した額で決定しました(この情報も各個教会へと送付された「常議員会記録」に掲載されています)。

申請・提案及び協議事項 2018年度の行事・会